



GOOD NEWS とぎのこえ

War Cry

1月号
福音版
2024
January
No.2863

二〇二四年 一月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

未年ではないけれど、 羊の話をしませう

ウエンデイ・モーリス

私は羊が大好きです。いろいろな国で羊を見てきましたが、いつも牧草地で他の羊たちと平和に暮らして

いるのを見かけます。それがこの美しく、時にその性質を誤解されやすい動物の魅力なのだと思います。少



し調べてみると、羊について興味深い事実がわかりました。

羊の瞳孔は長方形で、周辺の視野に優れています。羊は一直線に歩かないので、道を曲がりながら両方の目を使ってほぼ三百六十度を見渡して、攻撃してきそうな相手を素早く見つけることができます。

羊は記憶力に優れていて、自分を世話してくれる人の顔を覚えていきます。しかもつらよりも笑顔を好みます。

聴覚に優れ、羊飼いの声を聞き分けます。

喜びや恐怖、怒りなどの感情を耳の動きで表します。羊は仲間を頼りにします。ほかの羊が行方不明になると、悲しんだりもします。

たとえ安全でなくても、目の前にいる羊について行こうとする本能があります。先頭の羊が崖から飛び降りれば、続く羊たちも後に続くことになるでしょう。

羊は危険に直面すると逃

げ出します。闘争心はありません。痛みに対しては強い耐性をもっています。弱さを見せると捕食者に狙われやすくなるためです。

とても社会的な動物で、大きな群れを好みます。実際、群れから離れると落ち着きを失い、興奮した状態になります。

羊は自立していないため、愚かな動物という烙印を押されてきましたが、群れる本能が羊の安全を守っているのです。

羊は、治癒を助ける栄養素のある特定の植物を知っていて、病気になるとそれを食べて自己治療ができます。しかし、傷の手当てをする方法は知らないのです、羊飼いが必要なのです。

羊はひっくり返ると、羊飼いの助けがなければ立ち上がることができません。

羊は聖書の中に五百回以上登場します。聖書の登場人物の多くは野原で羊の世話をする仕事を経験しました。イエス様が生まれた時、最初にイエス様の誕生を知らされたのも羊飼いでした。

聖書には、羊飼いと羊の群れの密接な関係が描かれています。羊は羊飼いの声を聞き分け、ついて行きます。羊飼いは羊の群れを守り、

羊のためには命の危険を顧みません。

「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。……わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。」(ヨハネによる福音書10章11、14、15節)

これは聖書にある、イエス様の最も重要な教えの一つです。良い羊飼いであるイエス・キリストは、私たちを永遠の命の泉に導いてくださいます。私たちもこの羊飼いが必要なのです。

主イエス・キリストは私たちを愛しておられます。主は私たちに語りかけ、私たちは主の声を聞いています。私たちが倒れる時に、主は私たちが助け起こしてください。私たちが倒れる時に、主は私たちが助け起こしてください。もし私たちが主から離れ、道に迷ってしまったとしても、主は私たちを捜し出し、連れ戻してください。

あなたは、良い羊飼いを知っていますか？ 主はあなたを知りたがっています！

(救世軍士官(伝道者))

だれ一人として同じではない人生の歩みの中で、イエス・キリストに出会い、救いに至る道すじは十人十色といろです。様々な経験を経て、キリストによって新しい生き方へ導かれたお二人の方の証言あかしです。

自分の考えを超える 神様の導きによって

藤田 忠尚 さん (救世軍八幡小隊所属)



私は一九五五年に京都府で生まれ、十八歳までその地で過ごしました。十八歳で家を出たのは、外で自分の力を試したかったからです。今思えば、良い所で生まれたものだと感じていません。そこそ何百年も一カ所に住み続けるような古い土地柄で、そこで祖母や周囲の人たちから一つだけ大

切なことを教えてもらいました。それは、「人は、拝まないといけない」ということです。それがキリストの神様ではなくても、とにかく人として生まれたかには、信心をすることが当たり前だという風土で生まれ育ったことを、今でも感謝しています。それがやがて私が救われる道にも繋な

がったと思われるからです。そして東京へ出て、一九八一年に、西麻布の教会で洗礼を受けてクリスチャンになりました。信仰生活も職業生活も順調に過ごして、その後、この北九州に移ってきました。そこで教会を探して導かれたのがこの救世軍八幡小隊やほだでした。一九九四年十一月十四日、兵士入隊(救世軍の正式な信徒(兵士)となること)をしました。

ただ、私の歩みは、そこ

までは順調だったと思うのですけれども、実はその後坂道を転がり落ちるようなことになってしまいました。自分の力を試したいという思いから田舎を飛び出したわけですが、ここ北九州でも力を試したく、勤めていた会社を辞め、自分の仕事を始めようと思ひ、事務所(行政書士)を開きました。しかし、開業してしばらくすると、全然うまくいかなくなり、不景気もあって、クライアントが一社去り、二社去りと、とうとう食べるにも困るような状態になりました。

その時は本当に毎日祈りました。どんな祈りかという、神様にお金をください

い、と、しかも月の終わりになったら支払いがあるのでお金の金額まで言って、「神様、何万何千何円、私にください。今月中にください」と祈るようになりました。一方で、紆余曲折うよまげつがあって、小隊からも離れてしまいました。小隊から離れた理由は、持って行く献金がなくなつたからです。献金を持つていけないからという、そんな理由で。本当に私はくだらない人間だったと思います。

です。ちょうど十二月で、社会鍋募金の時期でした。しかし、この状態で救世軍から離れていましたから、街頭で社会鍋に献金を入れるのは恥ずかしいんです。顔を見られそうです。だからこっそりと夕方、小隊を訪ねました。「社会鍋に献金を持って来ました。」すると小隊長(牧師にあたる)に、普通に「元気でなさってますか」と聞かれ、「いや、あまり元気じゃありません」とか言つて、とぼとぼと帰つたんですけれど、その夜から寝られなくなり、小隊の会館で目にした、救世軍の軍旗が私の頭の中によみがえるんです。軍旗が頭の中に浮かび上がってきて、本当に寝られなくなつてきました。その頃、八幡小隊は開設百周年を迎える前でした。私は決心したんです。もう一度神様に繋がろう。もう一回八幡小隊に行こう、と。そう思つてその次の週から再び、この小隊に毎週集うようになりました。

あの時導かれたのは、本



百周年記念集会の時。軍旗を持つのが筆者

当にこの救世軍の軍旗によつてだったのです。なぜなのかと思うのですが、軍旗を信仰しているわけではなく、おそらく、私の知る聖書の教えと救世軍精神というものが、この軍旗の中にすべて詰まっているかと思ひ出されたからだだと思います。(注：救世軍の軍旗の三色は、赤―キリストの十字架の血、黄―聖霊の炎、青―神の聖きよさを表す。)

静かに待つ思いを 与えられて

足立 和美 さん (救世軍京橋小隊所属)



私は二〇一一年から二年間、青年海外協力隊でモンゴルに行きボランティア活動をしていました。ボランティアに赴く前、何も知らないモンゴルについて、海外生活や仕事などについて知りたいことが山のようにあり、あれこれ調べまくっていたことが思い出に残ります。

協力隊の活動終了後は、海外移住を目指し、海外で就労できるようチャレンジしていました。延べ四年間ほど、ベトナム、ミャンマー、インドネシアで働きました。その中でも特に印象に残ったのは、わずか半年しか滞在していなかったミャンマーです。三回も交通事故に遭い、最後の事故では、乗っていたタクシーが、対向車線を走っていた大きなトラックと何度もぶつかり怖い思いをしました。当時、薬物に興味があり、かつてゴールデントライアングルの一角を占めていた北部地域に観光に行きたいと現地スタッフに告げたいところ、「危ないからやめたほうがいいですよ」と止められたこともありました。また、多くのミャンマー人労働者がタイに出稼ぎに来るという国境を見に行き、当時の現地事情を学びました。

現在のミャンマーは、クーデター以降軍政権が継続し、主に西部地域に在住するロヒンギャと対立し、北部では分離独立活動が起こるなど、多くの問題を抱えています。まだ入国は可能なのですが、現地ですすには私が滞在していた時よりも注意が必要となります。帰国後は、私と同じ生きにくさを抱えた人を支援する仕事に就くという新たなチャレンジをしました。非常に楽しくやりのある仕事でした。しかし、心の病気の世界に深く関わったことが原因かはわかりませんが、私自身も心の病気にかかり、自傷行為をしたり、薬局から薬を買って乱用したりするようになりました。チャレンジすることは、たとえ失敗の結果に終わっても常に尊い、とお考えになる方もあるでしょう。大学の先生が、ギリシャのイカロスを称えた「勇気一つを友にして」という歌を取り上げ、あれは勇気を称える賛歌だと言っていたことを覚えています。次々と新しいことにチャレンジし続ける私は当時常に高揚感に覆われていました。チャレ

ンジは私にとって手段ではなく高揚感を得るための目的になっていったのだと思います。そのような状況に行き詰まり二〇二一年の末に京橋小隊(教会にあたる)に導かれました。インターネットで探して訪ねて行ったのです。当初、京橋小隊のホッとできる空間で気持ちを休めつつも、(神様ってすごいらしいけど何かよく分からないなあ)と感じながら過ごしていました。そのように一年ほど京橋小隊で過ごしていたある日、ひらめきが与えられました。ひらめいた当初はその意味が全く何だかわかりませんでした。最近「無謀なチャレンジを止める」という意味だったのかと感じるようになりました。このままチャレンジを続けたらイカロスのような最期を迎えることになるぞ、と。ひらめきの意味がわかるのに一年かかりました。イエスは弟子の足を洗ったとき、「わたしのしていることは、今あなたには分かってまいが、後で、分かるようになるよ」(ヨハネによる福音書13章7節)



それから、仕事もまたうまくいくようになりました。そして、本当に私が感動したのは、百周年の記念集会の時でした。私は軍旗を持たせてもらったんです。そして私が持っている軍旗が小隊の外に出たんです。もう感動しました。ああ、軍旗が外に出た、風が吹いた、はためいた。そしてジャパン・スタッフ・バンド(救世軍本部に属する brassバンド)の先頭に立ち、一緒に行進をしました。途中のあちこちで演奏がなされ、集会の案内がなされま

した。その時、私の心は完全に救いの確信へと移され、日々喜びに満たされた生活へと変えられたのです。この時の感動を今でも思い出します。「人は心に自分の道を考え計る、しかし、その歩みを導く者は主である。」(箴言16章9節 口語訳聖書) この御言葉は私の確信であり、そしてこれから私が生きて行くうえで、決して変わらない、私の道の灯、光だと思っております。ハレルヤ!

*ギリシャ神話の登場人物。蠶と羽毛で作った人工の翼で自由自在に飛べると過信し、太陽に接近すぎたことで蠶が溶け翼を失い、墜落して死を迎えた。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブ・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈万国本営 (国際本部)〉 平和のための祈りの呼びかけ

世界の救世軍の指導者であるリンドン・バッキンガム大將は、昨年10月、イスラエル、ガザをはじめ、紛争や戦争が起こっている世界中の多くの場所をおぼえ、平和のために祈るよう、世界中の救世軍人に呼びかけました。



救世軍は特に、紛争に巻き込まれ、傷つけられ、命を落としている罪のない人々のことを思い、祈り続けます。

〈メキシコ〉ハリケーン「オーティス」被災地での支援活動

2023年10月25日、猛烈なハリケーン「オーティス」がメキシコ南部のリゾート地アカプルコを直撃しました。5段階で最も強力な「カテゴリー5」となったこのハリケーンは、交通や電気、通



信網の遮断など深刻な被害をもたらし、27人の死亡が発表されています。アカプルコにある救世軍の児童養護施設の建物も損壊しましたが、子どもたちは安全な場所に避難しました。

メキシコの救世軍と救世軍国際本部 (英国ロンドン) の緊急支援チームは直ちに支援に乗り出し、メキシコシティからアカプルコへ向かい、道路からがれきを撤去する作業や、被災した地元の人々や、緊急支援活動を担う人々への食事や水の提供を実施しました。11月中旬までに3,500食を提供しました。買い物のためのクーポン券提供などの追加支援も検討されています。現地の救世軍は、今後の長期支援計画を立てるため、政府機関や地元当局と連携しながら働きを進めています。

〈女性の働き〉 ●乳がん月間にあたり

昨年10月の乳がん月間に、世界の救世軍では様々な取り組みがなされました。南アメリカ東部軍国 (アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイ) では毎年、乳がん患者のために何百個ものハート型の枕を作り、配布しています。この活動に賛同し愛とサポートの思いをもつ女性たちが枕を手作りしています。製作者の中には、救世軍のプログラムに参加している人やボランティア、また、服役中の女性もいます。これらの枕は、乳がんの手術から回復しつつある女性たちに安らぎを与えています。また、アフリカのガーナの救世軍アニダソフィエ・クリニックでは、10月の間、無料の乳房検査を実施しました。これは、地域の人々のための通常の医療ケアに加えておこなったものです。



ハート型の枕を作る女性たち

●女性と女児に対する暴力撤廃キャンペーン

11月25日の「女性に対する暴力撤廃の国際デー」から12月10日の「世界人権デー」まで、救世軍万国本営では「ジェンダーに基づく暴力に反対する16日間の活動」をおこないました。救世軍は男女の平等を重視しており、女性の人権を尊重し、あらゆる形態の虐待、暴力、搾取に強く反対します。



救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えました。神と人とを愛し仕える働きは、今も変わりません。



日本では1895 (明治28) 年に英国から士官 (伝道者) が来日して、救世軍の働きが始まりました。日本人で最初に救世軍士官となった山室軍平は、平易な言葉で聖書のメッセージを伝え、小隊 (教会にあたる) を拠点として伝道を進めるとともに、^{はいしゅう} 廃娼運動や結核療養所の設立をし、日本の医療、社会福祉分野での先駆者の一人にも数えられています。現在、日本では40の小隊、2つの病院、19の社会福祉施設を通して働きを進めています。



救世軍公報 ときのごえ
発行日 福音版 / 毎月1日、広報版 / 奇数月15日
定価 福音版 / 1部40円、広報版 / 1部100円 (税込)
振替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブ・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881 (代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。
【取り扱い支部】
救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのごえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。